

2010年3月2日

GHI、津波による被害の軽減に向けての活動紹介

～津波避難公園をスマトラ島パダン市に計画中～

OYOとジオハザード・インターナショナル財団

ジオハザード・インターナショナル財団 (GeoHazards International、以下 GHI) は発展途上国の地震による被害を最小限に止めることを使命に、世界 20 カ国以上で活動している米国の非営利法人です。当社はこの財団の設立に大きく関わりました。

当時、米国地質調査所に勤めていたブライアン・タッカー氏 (現 GHI 代表) と、当社の 2 代目社長、陶山國男 (故) が意気投合したのがきっかけです。陶山が共感した目的は「開発途上国の自然災害リスクを世界中の人に認識してもらおう」というもの。1991 年 OYO Pacific という会社名で活動しておりましたが、1993 年に独立。以来、当社と当社の社員をはじめ、全世界にいる会員が支援を行っております。

スマトラ島における津波からの避難方法についての検討

スマトラ島の南西部の海岸地域とメンタワル諸島は、世界でも最も地震と津波のリスクが高い地域です。この地域の海岸に面した村落では、地震や津波に対する備えを緊急に必要としています。

GHI は、このプロジェクトのパートナーである、GWB (国境なき地球科学者、Geoscientists Without Borders) と ESW (持続可能な世界構築のための技術者、Engineers for a Sustainable World) と共に、スマトラ島での津波対策の鍵として、垂直方向への避難可能性を検討しています。



垂直方向への避難とは、ビルや構造物など、地震や津波に耐えられる構造物を利用する方法です。高さがあるので、人々が浸水レベル以上の場所へ避難する事が可能です。このような建築物は、高台が無い地域や、震源がちかく、地震が発生してから津波が海岸に押し寄せるまでに避難する時間が無い場合に、非常に重要な存在となります。

津波避難公園をスマトラ島パダン市に計画中

インドネシアのスマトラ島西部に位置するパダン市は、30年以内に15%の確立で5～10mの高さの津波がくるといわれています。海岸付近の都市部は平坦で、津波が押し寄せてきた場合、75000人の死傷者が出ると言われています。大きなゆれを感じてから25分以内に安全な場所に避難しなければならないのです。

そこで、GHIは既存の公園を「津波避難公園」として高さのある公園に造りかえる事を政府に提案しています。ひとつの公園で15000人が避難できる広さを確保し、かつ、避難すべき市民が20分以内に避難できるように計画しています。

まずは、今後3年のうちに一つ目の公園を整備する予定です。



ハイチ、チリの地震

ハイチ再建に向けて支援活動はすでに始動（参考：<http://www.geohaz.org/>（英文））、また、2月27日に起きた南米チリの大地震への支援活動についても検討中です。

本件に関するお問い合わせは経営企画本部広報部までお願いします。

TEL:03-3234-0811 E-mail:kikaku@oyonet.oyo.co.jp